



新日本ウエックス(株) 廣瀬純平社長

メーカーレポート 新日本ウエックス(株)

## 東京五輪、IR、観光立国政策などを 追い風に継続的な業界発展を目指す

ホテル企業の業績が上向中、それに相応してユニフォームレンタル業界においても新たな動きが見え始めているという。リネンサプライのリーディングカンパニー、新日本ウエックスの廣瀬純平社長に業務用ユニフォームレンタルの現状と課題、そしてそれを解決する同社の施策について伺った。

もアウトソーシングする傾向が強まり、業務を効率化し、スタッフがそれぞれの業務に注力できる環境を整えているのだ。

さらにホテルレストラン業界でもユニフォームレンタルやリネンサプライを活用しようという動きがより顕著になってきていると感じているという。

「お客さまが賢くユニフォームを選ばれるようになってきており、われわれサプライヤーからの提案が求められています。その際にキーワードとなるのが、“衛生管理”と“耐久性”で、最近ではアパレル品よりもプロユースのユニフォームが見直されています。耐久性も高く、型崩れなどもしにくいので長い目で見れば結果的にお客さまにメリットがでます」

### 社内ラボで品質研究を進め 信頼性の高い商品を提供

衛生管理に関しては、ノロウイルスなどの問題がとりざたされ、安全委員会を立ち上げるホテルも多く、調理器具や食器はもちろん、クロスやユニフォームに関しても意識が高まっている。

そこで同社では、リネンサプライ業界で初めてドイツの品質保証規格「RAL」を取得。第三者機関による認証を受けることで客観的に品質の確かさを証明している。さらに、社

内に品質技術研究室を設けてユニフォームをはじめリネンに適した商品を責任持って提供できる体制づくりを強化しているという。

「品質技術研究室(ラボ)では、われわれが提供している商品の品質を自分たち自身で分析・研究しています。近年、業務用ユニフォームのクオリティーは格段に向上していますが、ユニフォームやリネン類は、消耗品のため何度も洗っていくうちに“変色する”“色移りする”“形がくずれる”“毛玉ができる”などの品質劣化が起こる可能性もあります。そのようなケースは、これまで洗剤メーカーや機械メーカーにその対策を求めてきました。しかし、これからはわれわれが主体的に製品や素材ごとの特性を理解し、当社のクリーニングでどのような対応が可能かデータ化してまいります。また極端かもしれませんが、提案する商品をチェックし、デザイン優先か管理優先かを問うような部分まで踏み込んで、クライアントのニーズにより適合した品質の高い商品を提供してまいります」

これら新しい取り組みと経験をベースに、現在150万着のユニフォームに搭載され、実用化から10年以上を経た、ICチップによる管理データとあわせたサービスを提案していくこと。それが、ユニフォームレンタル業において顧客との信頼を築く要だと新日本ウエックスでは考えている。

### 企業の業務用ユニフォームに 対する考え方に変化の兆し顕著に

景気回復や円高によるインバウンド需要増などの追い風を受けて、ホテルの客室稼働率が高水準で推移し業績向上が見られる。その中でユニフォームレンタル・リネンサプライ業の新日本ウエックスの業績も好調に推移しているという。これをビジネスチャンスととらえ、同社では積極的にさらなる投資を心掛けている。

「ここ一年間で受注も上向き、スタッフも増員しました。前年度決算も前期比で15%程度アップするなどホテル業界の好調がユニフォームレンタル業界にも波及していると感じています。増員に伴って顧客管理態勢も強化。当業界ではメンテナンスのクオリティーが取引の信頼性を高めていく重要で必要不可欠なファクターと考えるからです」と新日本ウエックスの廣瀬純平社長は話す。

これまでもホテル業界ではユニフォームレンタルやリネンサプライは一般的だが、近年はブライダル業界で